

CHAO LETTER

ジャパ・ベトナム報告 No.2

チャレンジ 2021 ! 困難に立ち向かう !

発行者：ジャパ・ベトナム事務局 発行日：2021 年 5 月 27 日

Japa Vietnam 関係者の皆さんへ

安藤 勇

昨年の 12 月にジャパ・ベトナムスタッフは Chao Letter を発行し始めました。それはコロナウイルスの状況のために、ジャパ・ベトナムメンバーのベトナム訪問が不可能になり、そこで行われているプロジェクト関係者との生のコミュニケーションが中々取れないからです。

今回の記事を読んでみれば、私たちの関りのあるベトナム人仲間からの声が伝わってきます。彼らは今まで様々な困難にぶつかりながら人々の自立の支えになってきました。ところが、今回その上、今までなかったコロナウイルスの新しい状況の中で悩んでいます。結局彼らのプログラムの対象者は弱い立場に置かれている人たちであって、コロナパンデミックによる一番被害を受けている方々に違いがありません。

今年になって、月一回のスタッフミーティングの際、初めてベトナムからのメンバーも Zoom を利用して参加しています。彼らの声を聴きながら、少しでも現在のベトナムの状況を理解することができ、コミュニケーションを続けることができました。これから、もっと頻繁にコンタクトを広げたいと思います。

皆さんは「ワクチン」を受けていますか。私は、やっと第一回目を受けたばかりです。予約が決まるまでは相当時間がかかりました。そこで、考えたことがありました。日本に滞在している外国籍の人々はおおよそ 290 万人だと言われていたますが、そのうち日本語の漢字が読めない人たちは何十万人いるのか知りません。さて、ワクチンセンターから送られる 5~6 枚の書類は日本語だけで書いてあり、予約するには電話も可能なところがありますが、多くはインターネットによるものです。私の職場には、「助けてください」という人たちが現れ始めています。

元気な毎日をお祈りしています。

子供尊重で頑張るスマイル

平井 裕

スマイルグループ（HIV の家族の子供支援）の移転先の新事務所で、ジャパ・ベトナムのホーチミンのメンバーと日本の活動メンバー（ネットで参加）との会合を行いました。訪問の際、国立大学人文社会科学大学の東日クラブ（日本語を学ぶ会）の若いメンバー、Yenさんと Cong さんが通訳として同行してくれました。

スマイルの活動の状況：子供の人数は 12 人。通常では、日曜日の 8 時から 16 時半が活動時間。イベントとしては、スポーツ、ソフトウェアスキルのトレーニング、環境問題の学習、料理の体験で自立心の養成、ワークショップ。年 2~3 回の旅行（環境保全を実体験。海の体験）。年末にパーティーを行う。今回のコロナの影響はもちろん有って、感染は落ち着いてきているが、支援金が 10 分の 1 になり、スタッフも減って厳しい状況にあります。

海外の支援先から人は来れないが、ベトナム内で2~3か月毎に子供と遊びに来てくれる国内のグループがあります。子供が少ない理由は、スタッフの人数不足、地方の子供が親の都合でホーチミンまで来れない、子供がゲームに関心が有って家にいたいとのことです。日曜日以外は学校に通学して勉強しています。支援の方法として、以前からの懸案ですが、ボランティアのスタッフとして支援することを、ジャパベトナムホーチミンメンバーに期待するところは大きいと考えます。

今回の訪問・ネット会合と Minh Phuong さんからの報告により、このコロナ禍と資金の無い中、まず子供を中心に大切にしていこうという考え方に基づいて、どのように努力して子供たちを育てているのかがよくわかりました。成長して社会にでた子供たちが、将来社会の中で活躍することに期待をもてた今回の訪問でした。

以下、その状況を Minh Phuong さんに語ってもらいました。

Minh Phuong

■ 移転とその後の活動：

事務所の移転は、コロナの影響が少ない状況でもこの先2年以上は続く想定で、財政的な事を考慮したためです。Smileの主たる支援母体は、ホテルグループで、今ベトナムの観光業が厳しい状況に置かれていて、支援をもらうのが厳しい状況になると考えたからです。このコロナの時期にも、ジャパ・ベトナム、他個人の友人からの支援を受けて感謝しています。今、メンバーは20人で、7才から15才までは12人です。新しいメンバーを見つけるのは容易ではありません。当初は、フルタイムのスタッフはそのアウトリーチ活動に取り組んでいませんでした。一方で、貧しい子供たちや校長が子供たちを紹介してくれた学校もありますが、子供たちが家にいて携帯電話でゲームをしていて、両親がスマイルに連れて行く時間がなかったため、うまくいきませんでした。私たちは両親にお金や食事を与えるだけでなく、子供が毎週どのように成長するのかかわからないので、子供と直接活動することは大事であると思っています。



■ ツアーの事：

以前、コロナの市中感染対策のソーシャルディスタンス確保のため3週間も閉鎖した時がありました。活動を再開した後、私たちは子供たちがリラックスするために何回か旅行をしました。それまでも旅行はしてきましたが、その時はいつも安全に実施することに配慮しています。夏休みの前には、ビーチ旅行を計画していますが、これもコビットに関する市からの指示次第です。今のところ、私たちは社会から隔離された地域、ロックされた場所を持っていません。私たちはコロナに影響されずにこの旅行が実施されることを祈っています。

■ ワークショップの事：

スマイルは日曜日のほとんどを子供たちと一緒に過ごし、その時、幾つかの課題を認識させます。その課題とは：環境問題、流行りに対するバランスと安定のある感情、社会の交通手段でのマナー、他人と自分達を尊重する方法、必要なサポートを見つける方法、大雨に巻き込まれた場合の事故の回避方法、好ましい言葉遣い、多様性の美しさ、違いを尊重する精神、正しい決断の方法、火から逃れる方法、感情や怒りを制御する方法、性的虐待を防ぐこと、そして1年間の計画を立てる方法です。

これらのワークショップを通じて、スマイルが子供たちの将来のために子供たちに与えることができる種の一つであると思います。将来のためだからこそ、私達は子供と親が同時に一緒に活動する必要があると考えています。ワークショップでは、家族や学校の友達と一緒に

にいる子供たちが自分でいくつかの問題も発見でき、皆でそれを共有し、自分自身を対処する方法を見つけるのを助けることができます。

活動の状況について、資金的な面では2021年の末まではやっていけるとは思いますが、2022以降の問題についても解決法を考えていきます。



みんなで集合



年度末パーティ



ワークショップ



ツアー・屋外活動



まだ終わらないその役割 ティエンヴォン グループ 島村晶子

ティエンヴォン・グループが設立された1999年ごろは、AIDS/HIV患者への偏見差別は現在とは比べ物にならないくらい強く、感染者は世間を恐れ、ただ隠れるように暮らしていたと聞く。悲惨な状況で絶望の極みにある貧しい患者と家族を放っておくことができず、医師や教会関係者などの協力も得て、グループは活動を開始した。

私は2003年ごろから、何度か活動に同行させてもらっているが、当時はリーダーのヴィンさんの家を集集場所にして、HCMの街をバイクで駆け巡り、救いを求めている患者を訪ねては、ケース毎の対応をしていた。ヴィンさんの家でスタッフが話し合っているその横で、患者が長椅子に寝かされて点滴をしていることもあった。



ヴィンさん

あるときは、数台のバイクを連ねて町外れの目的地に着くと、軒下のムシロに見るからに具合が悪そうなホームレスの少年が横たわっていた。集まってきた見物人が取り巻く中、彼はか細い声で懸命に何かを訴え、ヴィンさんは、病院など関連機関に粘り強く交渉の電話をしていた。

死期が近づく若者を車に乗せ、郊外のエイズ患者のためのホスピスに連れて行ったこともある。診断書と、家も家族もないという証明をグループが整えてくれたので、彼は入院の条件を満たし、やっと身を横たえるベッドを得ることができた。

ヴィンさんを始めスタッフは家庭を持つ女性が多かったが、頻繁に患者の家庭や入院先を訪ねては、本人と家族の訴えに耳を傾けてアドバイスをし、患者が亡くなると、誰も近づかたらない遺体を清めて葬儀費用を工面し、共に祈るなど、一家の悲しみに寄り添ってきた。

後に、教会の一角を診療所として借りられたので、現在は、家庭訪問の他に、週に何回か、この診療所を訪れる患者を診ている。皮膚や呼吸器疾患など、AIDS 患者がかかりやすい日和見感染症の薬を無料で提供し、点滴も行っている。ジャパ・ベトナムが支援しているのは、主にここで使われる薬代などで、今年度もすでにその申請が届いている。

診療所で、時には注意を守らない患者を叱り飛ばしたりもしながらも真剣に対応するスタッフを見ると、患者と家族にとって、グループは信頼される大きな拠り所であり続けていると実感する。初期に様々なケースに対応し、行政機関ともやり合いながら患者をサポートして培った経験が、今も生かされているのだろう。

今日では、HIV/AIDS 患者への人々の理解は深まり、偏見や差別も少しずつ解消されているという。しかし、グループがケアをする HIV/AIDS 患者の数は、今も 450 名を越え、遠方の病院の医師の紹介で、バイクの後ろに患者を乗せて長い道のりを走り続けて診療所を訪れる家族も多い。グループはまだまだ必要とされ、貧しい人がより打撃を受けるコロナ禍の下では尚更のことだ。

ティエンヴォンというベトナム語は英語の ECHO に当たる。患者の苦しみの叫び、彼らを支えてきたグループの訴え、グループを通じてベトナムの HIV/AIDS の人たちを支援しようという人々の温情が、反響を繰り返して消えずに広がっていく、今はまだ、それが望まれるときなのだと思う。

会計報告

小野浩美

いつも暖かいご支援をありがとうございます。
2020 年 12 月 23 日～2021 年 5 月 26 日のご報告をいたします。

		日本(円)	ベトナム(KVND)		日本(円)	ベトナム(KVND)
収入	一般寄付	603,000	0	前期繰越金	1,199,000	132,308
	助成金	0	0	当期収支	592,043	- 48,500
支出	支援金	0	48,500	次期繰越金	1,791,043	83,808
	活動費	11,404	0			

次回もよろしくお願い申し上げます。
(ご支援先) 郵便振替 00100-8-118761 JAPA VIETNAM
銀行振込 三菱 UFJ 銀行 店番号 315 普通預金 3544236
JAPA VIETNAM 代表 安藤勇